



ほつとするね
緑の府中

指導室だより

第 71 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室

〒183-8703 府中市宮西町2-24

電話 042-335-4063



特別支援教育の推進

府中市立小柳小学校長 三井 知恵子

ソーラン節の隊形移動で困っているA男に、「ここだよ」と優しく声をかけているB子。

運動会の練習風景の一コマである。こんな時、特別支援学級を併設している良さをしみじみと感じる。障害の有無にかかわらず、子ども同士が自然に交流し合い、互いの存在を認め合う土壌ができているのである。

一 **特別支援教育をめぐる動向**
障害のある子どもたちを取り巻く動向として、障害の多様化、発達障害への対応、早期からの教育的対応に関する要望、卒業後の進路の多様化、ノーマライゼーションの理念の浸透などがある。こうした状況の中で、中央教育審議会の答申を受け、特別支援教育は、大きな制度改正がなされた。そして平成19年度より特別支援教育が制度として始まった。

新学習指導要領でも特別支援教育について改善が図られ、総則の中に、主に次のような内容が示されている。
①障害のある児童については、「指導計画」または「支援計画」

を作成し、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

②特別支援学級又は通級による指導については、教師間の連携に努め効果的な指導を行うこと。
③障害のある幼児児童生徒との交流および共同学習の機会を設けること。

また、府中市学校教育プラン21でも「特別支援教育の充実」が提示され、次の観点が明確にされている。

①就学相談・継続相談の充実
②特別支援学級の充実
③個別指導計画の充実
④交流教育の推進

二 **小柳小学校における実践**
本校では、特別支援教育の推進を学校経営の一つの柱として全校で取り組んでいる。

◎ **個別指導計画の活用**
特別支援学級在籍児童および通級指導学級に通級している児童、巡回指導を受けている児童について個別指導計画を作成し、指導に役立てている。この個別指導計画や通級指導学級、巡回指導員からの情報などを個別に

ファイリングし、活用している。このファイルは、進級・進学にあたり指導の継続に重要な役割を果たすものと期待している。

◎ **交流および共同学習の拡大**
従来からの行事を中心とした交流に加え、現在は、通常学級の二年生が特別支援学級を訪問し、給食交流を実施している。

特別支援学級の担任が、二年生の子どもたちに特別支援学級について伝えることで、スムーズな交流が図られている。共同学習についても、児童の実態に合わせて取り組み始めている。生活科・総合的な学習の時間等ですでに実践しているが、他の教科の学習にも拡大していきたいと考えている。共同学習は、双方の学級の子どもたちにとって非常に価値のある活動である。実施後、休み時間に校庭で一緒に遊ぶ子、特別支援学級の教室に遊びに行く子が増えている。

◎ **校内委員会の活性化**
校内委員会は、特別支援コーディネーター、養護教諭、教育相談担当を中心に、組織的に活動している。巡回指導員や巡回相談員との情報交換を定期的に

実施し、連携を深めている。また、コーディネーターは、保護者との面談に、担任とともに出席し、専門的な立場からアドバイスを行っている。その存在は担任や保護者にとって心強いものとなっている。さらに、校内の様々な課題をかかえる児童や学級に対して、ケース会議を開催し、情報を共有し助言や支援に努めている。

◎ 教師の意識向上

特別支援教育を推進するためには、教師の意識向上が重要である。本校ではここ数年、講師を招聘して研修会を継続したり、交流及び共同学習を実施したりする中で、教師の意識は確実に向上していると感じる。特別支援学級と通常学級の教師間の交流も深まり、それが子どもたちに非常によい影響を与えている。

三 共生社会の実現のために

特別支援教育は、一人一人のニーズに応じた教育であり、就学前から就労に至る長いスパンで考えていく必要がある。学校だけでなく社会全体が関心をもつことを切に望んでいる。そして、障害の有無にかかわらず、全ての人が尊重され、共に生きる共生社会の実現を目指し、特別支援教育の推進に著実に努力したい。

＝初任者等研修会＝

子ども・保護者から 信頼される教師を目指して

教育は人間と人間が触れ合う中で、理解と愛情と信頼とに満ちた関係をつくり出しているときに最大効果を発揮する。(府中市教育委員会担任実務必携より)



平成21年4月28日(火)第2回研修会より
・講義・演習「教育公務員としての服務」

子どもたちからたくさん
のことを教えられた。目
を輝かせて好きなことに
取り組む姿や、成長する
姿を見るたびに、教師と
しての喜びを感じた。子
どもたちと共に学び、成
長していきたいと実感し
ている。日々努力を重ね
頑張っていきたい。

◆府中第五小養護教諭
松田 路乃

怪我をした子、具合が
悪い子、悩んでいる子。
保健室には、色々な訴え
を持った子どもたちが来
室する。手当後の「あり
がとう。」という言葉が何より嬉
しい。それと同時に、子どもに
勉強させてもらっていることを
実感する。この気持ちを忘れず
に、成長していきたい。

◆府中第六小養護教諭 森 麻美

憧れの養護教諭になって早
五ヶ月が経過した。子どもたち
を、知れば知るほど尊い存在に
感じ、表情や仕草、話し方など
からも、少しずつ変化に気づけ
るようになってきた。これから
も子どもたちのために一層努力
して、一人一人の元氣と笑顔を
大切にしていきたいと思う。

◆府中第七小教諭 宮本 裕美

この六ヶ月、毎日が驚きと発
見の連続だった。子ども一人一
人の反応や発言などから子ども
の思いを感じると、とても嬉し
くなる。そしてそれが私の原動
力となっている。私は子どもた
ちのために何ができるのか。日々
自問自答しながら、これからも
笑顔で教壇に立っていきたい。

◆府中第八小教諭 坪木 有太

幼いころからの夢であった教
師の道を府中で歩みだして早
五ヶ月が過ぎた。学ぶことの多
さに日々てんてこまいになりな
がらも、子どもたちのことを
ずっと考えていられる生活に幸
せを感じている。二学期以降も
子どもの笑顔をたくさん見られ
るようがんばっていきたい。

◆府中第八小教諭 角田奈津希

「先生、今日は何をするの。」
「あ。分かった。」新しいこと
に出会う喜び、挑戦してできた
喜びに満ちた子どもたちの声や
笑顔に私は力をもらっている。
子どもたち一人一人を共感的・
肯定的に捉え、子どもたちの興
味・関心を大切にしている教師にな
ろうと決意を新たにしている。

◆府中第九小教諭 戸井田三花

初めは子どもたちを前にして
授業することに精一杯であっ
た。しかし、徐々に子どもたち
の様子がわかるようになってき
た。今は子どもたち一人一人の
よさを引き出すことに日々やり
がいを感じている。失敗するこ
とも多いが、反省を生かし、向
上できる教師になりたい。

◆府中第十小教諭 津田 啓介

初めは緊張し、模索する毎日
であったが、子どもたちと共に
学び・遊ぶことを通して、非常
にやりがいを感じている。どん
な大変なことがあるうとも、子
どもたちの輝く目や笑顔を見る
たびに喜びを感じる。これから
も、子どもたちと一緒に成長し
続けていきたい

◆府中第十小教諭 元山 真澄

初めの一ヶ月は緊張の毎日
で悩むことも多くあった。しかし
今は、多くの先輩の先生方から
ご指導をいただき、子どもたち
と心が通じ合い、子どもたちの
成長を身近に感じ、毎日がとて
も充実している。これからも子
どもたちと共に「明るく元氣」
に日々精進していきたい。

◆住吉小学校教諭 幸道 瑞貴

あっといふまの一学期。どん
なに疲れていても、子どもたち
に会うと自然に笑顔になる自分
に気付いた。私のことを信頼し
てくれる子どもたちに誠実に向
きあうためにも、日々を大切に
過ごして多くのことを吸収し、
努力していきたい。私も子ども
に負けず、成長したいと思う。





平成21年 5月25日 (火) 第4回研修会より
・講義・演習「児童・生徒理解」

るく笑顔の絶えない
学級にするために努
力し続けていきたい
◆白糸台小学校教諭
関 隆史

夢にまで見た教師
の仕事。初めは、教
師が話すことが多く、
授業が単調になって
いた。そこで、授業
の中にゲームや、身
近な教材を取り入れ、
活動を増やすことを
心がけた。すると、
授業に活気が出てき
た。二期期は更に教
材研究を重ね、楽し
く・分かる授業を目指したい。

じる度に嬉しくなる。たくさん
の発見ができるように、子ども
とのかかわりを大切にしていき
たい。
◆若松小学校教諭 二川 佳祐

憧れの職業の教師に就いてか
ら四ヶ月、予想以上の忙しさと
想像以上の充実を感じている毎
日である。次々と迫ってくる仕
事に狼狽する時もあるが、子ど
ものぐんぐんと成長をしていく
姿を見ると「負けてられない」
と元気をもらおう。二期期も子ど
もと互いに高め合うような教師
を目指していく。

◆南白糸台小教諭 浅沼 日向
期待と不安の中、子どもたち
と出会ってから早五ヶ月。何を
やるにもぎこちない教師だが、
子どもたちは一生懸命に話を聞
こうとしてくれ、また色々な話
をしてしてくれている。少しずつだ
が、個々を見る余裕もできてき
た。これからも、子どもたちと
一緒にクラスを作っていきたい。

◆四谷小学校教諭 西川 夏代
子どもたちが少しずつでもで
きることを増やしていける授業
を目指し、私はこの四月から教
壇に立ってきた。授業計画や指
導の在り方など、うまくいかず
に悩むことも多かった一学期で
あるが、子どもたちが生き生き
と学習に取り組めるように、二
学期も努力していきたい。

体や心の不思議を伝える養護教
諭の仕事にとっても魅力を感じ、
当初の不安も減ってきた。
学校の元気のために、笑顔と
大丈夫の空気、「明日も元気に
会おうね」と見送れる保健室に
していきたい。

◆日新小学校教諭 柳沢ゆかり
緊張と不安と期待とで胸ふく
らんだ子どもたちとの対面から
早五ヶ月が過ぎた。子どもたち
との触れあいの中で、不甲斐な
さを感じることもあるが、子ど
もたちの笑顔や成長した姿から
元気をもらい、前向きに教壇に
立つことができている。子ども
たちの成長のために今後も頑張
りたい。

◆本宿小学校教諭 中村 博明

希望と不安を胸に抱きながら、
子どもたちと初めて出会った4
月6日の始業式より、はや五ヶ
月。自分にとって、新たな発見
新たな挑戦の連続であったと思
う。自分の苦労が全て、子ども
たちの成長につながると思いで、
これからも日々頑張ってい
きたい。

◆本宿小学校教諭 石塚 保章

初めて学級の子どもたちと出
会った日が、昨日のことのよう
に思い出される。子どもたちと
向き合い、一緒に生活する楽し
さを感じると同時に教員として
の責任を実感している。毎日が
反省の連続であるが、いつも明

◆矢崎小学校教諭 菱倉 裕輔

憧れだった教師人生。33人の
人生を預かるという責任の重さ
を毎日感じた。だから仕事に全
力を注いだ。それが児童の成長
につながった。そこに大きなや
りがいを感じた。これからも責
任を力に変えて、児童や保護者、
先生方から期待され、信頼され
る教師を目指す。

◆矢崎小学校教諭 森 美穂

第一回目の初任者研修で新海
教育長が言われた「毎日が発見
の連続」という言葉を頭に留め
て、日々の生活を送ってきた。
子どもたちの日々の成長に触れ、
子どもの持つパワーの凄さを感じ

◆小柳小学校教諭 齊藤佐智子

「先生、あのね。」一年生の
子どもたちと一緒に過ごす時間
に、教師になった喜びをかみし
める。同時に、まっすぐに私を
見つめる瞳に、教師としての責
任の重さを感じる毎日である。
「学校は楽しい。」そう言ってく
れる子どもが一人でも多くなる
よう、日々努力していきたい。

◆小柳小学校教諭 小菅 将之

念願だった教師生活が始まり、
あっという間に半年が過ぎよう
としている。毎日勉強と失敗・
反省の一学期であったが、子ど
もたちの笑顔にいつも支えられ
元気をもらった。子どもたちの
ようにいつでも明るく、素直な
気持ちで取り組み、多くのこと
を吸収していく教師でありたい。

◆南町小学校教諭 山田 彩

子どもの笑顔に囲まれ、これ
からの未来を担う子どもたちと
共に笑い、泣きながら一緒に成
長していける教員の世界にいら
れる幸せを日々かみしめている。
子どもたちのきらきらした瞳と
成長し続ける姿を見るのが毎日
の楽しみである。何年経っても
子どもたちと共に成長してい
きたい。

◆南町小学校養護教諭 蓮見 知子

すべての原点である「元気に
登校」そのためのお手伝いや、

◆府中第一中教諭 長尾 隆太

教師になり、授業以外にも
様々な場面で生徒と接する時間
が増えた。その中で、生徒たち
と一緒に過ごす楽しさを感じる
と同時に、教師としての自分の
未熟さを感じている。これから
日々の学校生活や研修を通して
研さんを積み、教師としても人
間としても大きく成長したい。



◆府中第二中教諭 原添さやか

「生徒全員に体育が好きと思わせませす。」と、目標を発表した四月の初任研。現実には目標にほぼ近い日々の連続。でも、

生徒の直向きな姿を見ると励みになる。このような気持ちの浮き沈みの六ヶ月。課題は山積みである。生徒のための指導ができるように、日々研鑽していく。

◆府中第二中教諭 吉田茉莉子

教員になって早五ヶ月。毎日笑ったり怒ったり、頭も体もフル回転の日々が続いている。苦労することもたくさんあるが、

それでもなんとかやっていけるのは生徒がいるからだと思う。「理科って楽しい！」子どもたちがそう思える授業ができるよう日々努力していきたい。

◆府中第三中教諭 清水 寿里

この一時間がいつの日か、子どもたちの役に立ってくれたらと毎日、毎回の授業は緊張している。今、学校教育に求められている「生きる力」の育成に、私が社会人として経験してきたことが、生かせたらと思う。先輩の先生方、生徒から学ぶ毎日を過ごしている。

◆府中第三中教諭 横山 布美

教員になって、いろいろなことで悩んだり、落ち込んだりすることがある。そんなとき、生徒と接していると、どんなに辛

くても笑顔になることができる。生徒は、すごいパワーを持っていると思う。私もっと子ども

の笑顔を作れるように、いつも笑顔で頑張りたい。

◆府中第四中教諭 久恵 浩二

教員になり数ヶ月が経つが、毎日が新たな発見の連続である。生徒たちの、良くも悪くも予想を上回る言動に日々驚かされている。その驚きに、喜びを感じ

ることもあるが、自分の至らなさを痛感することも多い。これから生徒と共に大きく成長していきたい。

◆府中第四中教諭 野田 尚世

教員となって四ヶ月が経ち、教育の奥深さと難しさを感じている。それと同時に、毎日を生懸命に過ごして、どんどん成長

していく生徒の姿に、私も生徒から多くのことを教えられた。まだまだ足りないことも多いが

◆府中第五中教諭 大泉 雅哉

怒濤のように過ぎていった一学期が終わり、心も身体も多少ほっとしている。夏休み中、一生懸命汗を流しながらも笑顔で挨拶をしてくれる生徒たちの姿

◆府中第十中教諭 鈴木 悠平

が今の私の活力となっている。二学期以降においても、今まで同様、謙虚さを忘れずに日々邁進していきたい。

◆府中第六中教諭 山下 遊

赴任当初は慣れない環境に戸惑いや不安もあったが、周りの先生方や体育館などの施設にも恵まれ、徐々に戸惑いもなくなり、楽しく過ごしている。生徒

には厳しく接しているが、楽しんで体を動かす生徒を見て、もったいない授業をしようという

◆府中第八中教諭 広田 七生

緊張と不安そして失敗の繰り返しで一学期が矢のように過ぎた。憧れていた職業の厳しさ、自身の甘さを痛感する日々である。しかし子どもたちの真剣な

眼差しには、想像以上に救われた。助けられるだけでなく、一つでも応えていける授業をする決意で、二学期に臨みたい。

◆府中第八中教諭 菊森 由真

教師になってこの五ヶ月間は、毎日全力で駆け抜けた。授業や学校行事、部活動等、子どもたちとのかわりの中から色々な事を学び、その中でも授業の大

◆府中第十中教諭 鈴木 悠平

切さを痛感させられた。まだまだ足りないことばかりだが、子どもたちと正面から向き合い一杯の力を尽くしたい。

◆府中第十中教諭 鈴木 悠平

教師になってからとても充実した時間を過ごしている。まだまだ上手いかないこともあるが、生徒とのふれあいのなかに

は何事にも換え難い学びと喜びがある。教師になってよかったと言える今の気持ちを大切に、

生徒の心を掴める教師へと、生徒とともに成長していきたい。

◆府中第十中教諭 原田 絵理

教師になって五ヶ月。大変なことでも悩むことも多く、まだまだ上手いかないことも多い。ただ、悩み考えて行動をした分、

生徒の笑顔を見ることができた時の喜びは大きい。私自身まだ未熟で課題も多いが、これから研修を重ねて、努力を怠らず成長をしていきたい。

◆浅間中学校教諭 永井 健次

教師としての五ヶ月間は楽しいときも、苦しいときもあったが、数々の新たな素晴らしい人との出会いが私の支えとなってきた。何事も自ら進

んで経験をすることが、一人前の教師となるための道筋であることを忘れない。これからも常に謙虚な姿勢で職務に邁進していく。

◆幼稚園教諭 矢崎幼稚園教諭

初めは子どもたちの前に立つことに戸惑いや緊張を感じていたが、毎日昨日とは違う新しい姿を見せてくれる子どもたちとの生活は

◆幼稚園教諭 田口 智子

楽しく、喜びを感じる。日々

の生活の中では、子どもたちに助けられることや教えられることが多くある。これからも子どもと一緒に成長していきたい。

◆小柳幼稚園教諭 下山 一恵

10年目にして幼児教育の現場への異動となり、四月当初は不安の連続であったが、日々子どもたちとかわり、遊びを通して、子どもたちの成長を感じられた時は嬉しい。

これからも子どもたちの笑顔に支えられ、共に成長していきたいように頑張りたい。



平成21年6月30日(火)第7回研修会より
・講義・演習「人権教育の推進」



わが校の特色ある教育 NO. 37

心豊かにたくましく

～ 体育朝会を通して～

府中市立府中第三小学校

主任教諭 堀米和志



持久走…高学年は、健康センターそばの多摩川「風の道」で行っています。

休み時間には、多くの子どもたちが練習に励む姿が見られる。長なわ跳びの取り組みは、健康の保持増進・体力向上に加えて、友達同士のかかわりも強められる運動である。年度の初めに行うことで、子どもたち同士の間、子どもたち同士の間、つながりも深められている。

【持久走】

毎年、12月初旬に持久走大会を行っている。

体育朝会では、全校で持久走の取り組みを通じて休み時間の練習の仕方を覚えたり、意識付けを図ったりしている。

持久走大会前の一ヵ月程度を持久走月間としている。毎日中休みの最後の5分間を持久走練習時間（ランランタイム）とし、全校で走っている。音楽を流し、個々のペースを守って走る。

また、学年の発達段階にあわせた持久走カードを用意し、走った周回数だけ色を塗っていき、走るごとに塗られていくカードを子どもたちはとても楽しみにしている。

高学年はタイムの計測もする。6年生は、5年生時のタイムから自己の記録向上をめあてとし、

朝から練習に取り組む姿も見られる。

【短なわ跳び】

三学期は、短なわ跳びに取り組む。最初の回は基本的な跳び方を紹介し、取り組みのきっかりとしている。二回目は、高学年による高度な技の披露を行う。下の学年には、よい目標となっている。

短なわ跳びでは、本校独自の検定級を設け進級カードを作成し、より高度な技や持続して跳ぶことに挑戦している。

休み時間にはそのカードを手に、校庭一杯に広がって練習している。練習と同時に体育委員による検定も行っている。練習でできるようになった子どもたちはすぐに検定を受け、級を上げる喜びを味わえる。

上手な子や高学年が、一所懸命に練習している子に技や跳び方のコツを教える姿も見られ、学年を超えた交流がある。

【今後に向けて】

今日、運動する子どもとそうでない子どもの二極化が言われている。発達段階を考えると、子ども

ものうちに多様な運動経験を重ねていくことは、大変重要なことである。

学習指導要領・総則には、「学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」と記されている。

体育学習を中心に、体育朝会や日々の教育活動の中で運動に取り組んでいくことは、これからはますます重要になっていくと考える。

体力テストのデータも参考にしながら、恵まれた環境を生かし、健康の保持増進・体力向上がより図られるよう、努めていきたいと考えている。



短なわ跳び…休み時間もみんなで短なわ跳びに取り組んでいます。

府中市の南に位置する府中第三小学校は、児童数831名、通常の学級25学級と特別支援学級が併設された、大規模校である。子どもたちは、広い校庭と60数本の桜の木という素晴らしい環境の中で元気にのびのびと生活している。恵まれた環境を生かし、健康の保持増進と体力の向上に向け、体育学習だけでなく、全校での取り組みとして年間12回程度の体育朝会を行っている。そこでは、「長なわ跳び」、「持久走」、「短なわ跳び」を主な内容としている。健康の保持増進と体力向上のためには体育朝会という短い時

間の中だけでは無理である。体育朝会では、取り組みきっかりやまとめなどの時間と位置づけ、年間を通して普段の生活の中に運動を取り入れられるようにしている。

【長なわ跳び】

今年度より一学期の取り組みとした。クラスごと、八の字跳びが何回跳べるかに挑戦する。時間は3分間である。

一回目に初めの記録を取り、約一ヶ月後の体育朝会で再び記録を取る。その間、クラスごとに練習を重ねていく。日々の練習が回数の増加につながり、記録の伸びが意欲につながっている。

約一ヶ月後の体育朝会で再び記録を取る。その間、クラスごとに練習を重ねていく。日々の練習が回数の増加につながり、記録の伸びが意欲につながっている。

府中市教育委員会研究協力校
研究発表会案内(2学期)

- ◆武蔵台小学校 10月23日
○研究主題「伝え合おう 自分の思いを 自分の言葉で」(国語科)
○講演「対話を基礎に、思考力・表現力を育てる」
講師東京学芸大学名誉教授・前早稲田大学教授 田近洵一先生
- ◆府中第四小学校 10月30日
○研究主題「すすんで運動に取り組む児童の育成」(体育科)
○講話「活用力の育成とワークショップ型授業」講師東京学芸大学教授 細江文利先生
- ◆日新小学校 11月6日
○研究主題「豊かなかわり合いの中で、自主的に活動する児童の育成」(特別活動)
○講演「特別活動で学校・学級が変わる」講師國學院大學教授 宮川八岐先生
- ◆府中第一小学校 11月13日
○研究主題「感じ・考え・創造する子の育成」(国語科)
○講演「読むこと 書くこと 生きること」講師作家 浅田次郎先生
- ◆府中第五小学校 11月27日
○研究主題「考えを深め表現できる児童の育成」(国語科)
○講演「ことばの力と考える力」講師児童文学者 齊藤惇夫先生

※詳細は、各校に問い合わせを。

日	曜	研修会・委員会等	会場	研修内容等
2	金	小学校英語活動推進委員会	教育センター	全体会
5	月	生活指導主任会	教育センター	全体会、小・中分科会
6	火	体力向上委員会	教育センター	全体会
13	火	人権教育推進委員会	南町小学校	研究授業
16	金	ICT活用推進委員会	住吉小学校	研究授業
19	月	特別支援学級代表者会	教育センター	全体会、分科会
20	火	理科指導支援員研修会	教育センター	講義、実技研修
20	火	初任者等研修会	教育センター	市内学校
21	水	算数・数学指導員研修	教育センター	講義
22	木	教務主任会	教育センター	全体会、分科会
26	月	学校図書館推進委員会	教育センター	全体会、パソコン管理の活用方法検討
27	火	校内研修担当者研修	教育センター	講義「校内研修の進め方と児童・生徒の学びについて」



朝夕はめっきり涼しくなり、秋の気配を街中でも感じられるようになった。この季節には今年度のまとめと来年度への方向性が気になってくる時期である。本年度は、10月23日の武蔵台小学校から来年2月9日の府中第九小学校の研究発表まで、小学校7校、中学校3校で研究協力校としての発表会が予定されている。また、教育委員会の研究協力校ではないが、全日本音楽教育研究会全国大会東京大会等いくつかの研究発表も予定されている。

研究発表に向けて

教育基本法の第九条は教員の研究と修養が位置付けられ、今後一層の充実が期待されている。さて、研究協力校においては、研究主題を掲げ、子供たちのために、研究を推進しているところであろう。当日の授業や研究発表に向けて研究推進委員会等を中心として創意工夫を凝らしていることと思う。研究発表会で期待する点として、まず、発表会当日は、教職

員のもてる力をすべて注ぎ込み、最高と思える授業をすることである。参観者からよく聞かれる声として、「この授業は研究発表としてやっているからできるんだ。」とか、「日常の授業では、こんなには時間がとれない。」等がある。しかし、研究発表とは、各学校が研究主題に沿って研究を深め、その時点でできる最高の授業を発表することであると考えている。

次に、参観者に伝える発表の方法である。発表は2年間にわたり、研究を重ねてきているので、成果や課題を的確に押さえているが、参観者に成果や課題が的確に伝える方法の工夫に期待したい。情報伝達ソフトの一面面に情報が入りすぎていたり、ソフトに頼りすぎて、発表の焦点が定まらない場合も見受けられる。ぜひ、2年間の実践を十分に伝える工夫をして、子供たちに還る研究発表会になることを期待している。



(指導主事 出町 桜一郎)

学びの窓

こくふロマン交流祭の開催
文化振興課文化財担当主幹 英 太郎
武蔵国府跡の国史跡指定については以前に「学びの窓」で報告させていただいたが、今年は市制施行55周年の記念の年でもあるので、両方を記念して10月24日・25日に「国府」をテーマとしたイベント「こくふロマン交流祭2009 in 府中」を全国に先駆けて開催することになった。「国府」は古代の律令体制の中で全国の約60か国に設置された地方の役所である。その後の歴史の推移の中で役所としての機能は衰退したが、所在地は現在も地域の中心的なまちとなっているところが多い。
イベントは日本全国の国府所在地の自治体に呼びかけて、市長さんをはじめとする各市の皆さんに来ていただいて、共通の歴史遺産である「国府」を活かした人・情報・物産などの交流を行おうというものである。
初日の24日はシンポジウム、国府をテーマとした市内小中学生の手づくり新聞と作文コンクールの発表と表彰が行われる。2日目の25日はやき並木通りを舞台に国司に扮してのパレードや物産展を行う予定だ。